

リチウムイオン電池火災防げ

モバイルバッテリーやスマートフォンの発火事故が相次ぐ中、古紙回収業の斎藤英次商店(柏市、斎藤大介社長)は今月、松戸市と連携し、家庭で使わなくなったリチウムイオン電池などを松戸営業所(同市和名ヶ谷954の7)で無料で回収するサービスを始めた。同社は「社会課題の解決につながれば」と話している。(林容史)



松戸で無料回収

今年2月、千葉市の千葉(同市若葉区)、土気(同市緑区)両営業所で受け入れを開始しており、松戸市が2例目になる。

小型・軽量で寿命が長いリチウムイオン電池は、スマートフォンやタブレット、モバイルバッテリーなど日常生活のあらゆる場面で使われている。強い衝撃が加わると発火する恐れがあり、家庭ごみに混じったリチウムイオン電池から出火して、ごみ収集車やごみ処理施設が火災になるケースが増えている。こうした事故を未然に防ぎ、資源を有効活用する試み。

空港やホテルなどでモバイルバッテリーの忘れ物が増え、処分に困っているという声を受け、同社は昨年夏から独自に回収の仕組みづくりを進めてきた。同月、法人を対象にリチウムイオン電池のリサイクル回収をスタート。膨張したり破損したりしたリチウムイオン電池は回収しない自治体もあることから、一般向けサービスに乗り出した。

同社イノベーション推進本部の長谷川智也さんは「今後は千葉、茨城の全営業所に広げて、市民に安心して持ち込んでもらいたい」と話している。

古紙回収業者が市と連携

スーパーやホームセンター、コンビニへのリサイクルステーションの展開も検討する」と話している。松戸市でも、ごみ収集車から煙が上がったり、クリンセンタールで火災が発生したり、廃棄したリチウムイオン電池が原因と見られる事故が起きている。

市廃棄物対策課は「市民には分別の徹底を呼びかけている。受け入れ先が増えることで事故の防止につながってほしい」と期待を寄せる。

詳細な回収方法は同社のホームページに掲載している。

斎藤英次商店松戸営業所に持ち込まれたモバイルバッテリーなど。松戸市で